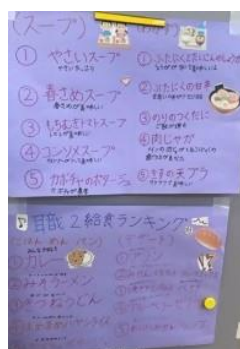




【学校給食週間 ～ まきびの給食 日本一 ～】

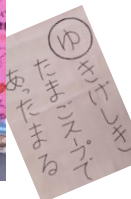
1月24日(火)～30日(月)は学校給食週間でした。「おいしい!」と評判の本校の給食は、栄養教諭の先生と9名の調理員さんで、児童生徒・教職員分の約500食を調理してくださっています。咀嚼や嚥下の力の弱い子もいるため、調理段階で切り方や煮方を工夫し、ミンチ食やペースト食にも対応、また普通食でも一人一人の状態に合わせてはさみでカットするなどして提供しています。年間を通じて、まき産直さんをはじめとする地元の食材や、本校の畑で生徒たちが育てた野菜がふんだんに使われています。また、サヤエンドウのすじとりを生徒たちが行うなどの学習も行っていて、児童生徒にとって、給食はとても親しみ深く、楽しみなものです。いつも豪華でおいしい給食ですが、給食週間の期間中は、「たこめし」「宝島寺漬け」といった岡山の料理、北海道の郷土料理やイギリスの料理など、いっそう工夫を凝らしたおいしい献立が続きました。

普段はなかなか教室に来ることが難しい調理員さん達が、期間中には教室に来てくださり、ペースト食を食べる様子を見て、「食べにくいものはないですか」と声をかけてくださいました。子どもたちからは、栄養教諭の先生や調理員さんたちへ、お礼のメッセージを手渡したり、ランチルームに掲示したりしました。



学校教育において、毎日の給食は、栄養をとったり食習慣を養ったりするだけでなく、食文化に触れたり、食べ物やそれに携わる人への感謝の気持ちが育ったりするととても大切なものです。学校給食週間を通じて、子どもたちはよりいっそう給食が大好きになったことでしょう。

(校長 梶谷淳子)



全校児童生徒が作った
「給食カルタ」より

【居住地校交流】

本年度より、交流籍を活用した居住地校における交流が始まりました。居住地校交流は、本校児童生徒が自分の住んでいる地域の小・中学校で、その学校に在籍する児童生徒とともに学習を行う活動です。今年度も学校紹介、教科学習、お楽しみ会、芋掘り、スポーツ、運動会、学習発表会、休み時間等の活動に楽しく参加しました。また学習発表会に向けて応援の手紙、手紙の交換、学年便り等を通じての間接的な交流も積極的に行いました。

居住地校で過ごした後、学校に帰ってきた子どもたちはみんな満足そうで充実した表情をしていました。地域の友達と様々な活動を通してともに過ごすことは、同じ地域の仲間として自然に互いを認め合える大切な時間となっています。

